

PCSA アクションレポート(依存問題対策プロジェクトチーム)

平成 29 年 9 月版

第 7 回依存問題対策プロジェクトチーム

- 開催日時 平成 29 年 9 月 30 日（土） 午前 9 時～正午 12 時
開催場所 PCSA 会議室
出席人数 メンバー 7 名、正会員オブザーバー 1 名、合計 8 名
出席者 <リーダー>
辻 良樹 株式会社ダイナムジャパンホールディングス 法務グループ グループ長
<サブリーダー>
荒田 政雄 夢コーポレーション株式会社 監査役
<メンバー>
望月 孝浩 株式会社ダイナム 法務・リスク管理部 リスク管理担当
倉沢 隆志 株式会社ニラク 法務部 法務担当
福島 一実 夢コーポレーション株式会社 運営推進部 オペレーション改革グループ
若林 昇 株式会社キョウサン
武内 好努 アメニティーズグループ（株式会社パンドラ） 組織戦略部 課長
<正会員オブザーバー>
佐久間 仁 株式会社ニラク 法務部 グループマネージャー

1) 第 3 回ギャンブル依存症対策推進関係閣僚会議（2017.8.29）について

パチンコ業界も含め、公営ギャンブルもまとめた依存対策の内容などを整理する為の会議と考えている。横並びな公営ギャンブルの依存対策の中、競艇は電話相談窓口の 24 時間対応、必要と思われる対象者に回復施設の紹介と合わせて初診料の負担を実施するなど踏み込んだ対策を講じている。また、パチンコ業界の進捗についても報告されており、現在講習会が開催され、徐々に人数を増やしつつある「安心パチンコスロットアドバイザー」の文言も会議内の発言として記録されている。続いてリカバリーサポート・ネットワーク（RSN）の電話相談窓口の対応時間延長や、本人と家族申告によるアクセス制限（自己申告プログラム）、規則改正による出玉規制、管理遊技機、営業所の管理者の業務義務付けなどの記載がある。また、RSN について記載された「持ち帰り用リーフレット」は、各都道府県で既に配布されている可能性もあり、各社確認が重要となった。

2) 一般社団法人 Resourceful Center of Problem Gambling（RCPG）について

Resourceful Center of Problem Gambling（RCPG）は、ギャンブル全般に対して対応を組織という事だった。なおパチンコ業界に関しては、RSN からの外注先として、午後 4 時から午後 10 時まで電話相談窓口を設置、対応する。沖縄の RSN、並びに全商協の RSN 支援室はこの該当時間内の対応はせず、RCPG に一本化される。また同時に対面面談のブースを 2 つ設置。これらの内容を 10 月より開始する予定となっている。

3) 第 8 回依存問題対策推進会議（2017.9.27）について

今回の協議事項は、

1. RSN の相談時間の延長などについて
2. 全商協 RSN 支援室の経費負担について
3. 安心パチンコパチスロアドバイザー講習会の開始結果について

「1. RSN の相談時間の延長などについて」では、沖縄の RSN に昼間の相談員を 1 名新規に雇用、相談時間の延長は RCPG に委託、対面面談を週 1 回月 4 回の開催を予定。沖縄の相談員増員と時間延長等の部分を合わせて費用は年間 2500 万円を見込む。

「2. 全商協 RSN 支援室の経費負担について」では、1 ヶ月当たり約 74 万円の経費。RSN と全商協支援室は、午後 4 時以降の電話相談はせず、RSN より RCPG に午後 4 時から午後 10 時までの電話相談を外部委託する事になる。

「3. 安心パチンコパチスロアドバイザー講習会の開始結果について」では、これまでの 6 回で 3,503 人が修了証を受領している。このペースであれば年内に 1 万人は超える見込み。都道府県ごとに 1 営業所あたり 1 名の安心パチンコスロットアドバイザーが設置できる人数を超えれば、店内で前述の「持ち帰り用リーフレット」配布などが開始される。また、10 月以降は各県遊協が DVD を使って講習会を開始。DVD を使った講習会では、視聴後にアンケート形式でテストのようなものが課せられると見られる。DVD 講習会で年内 1 万人の次に 2 万人を目指す。講習会の内容は徐々に改善されてきている。また、基本的に講習会 DVD は各都道府県遊協のみに出すとの事。

4) 21 世紀会による「RSN 相談機能強化等」（2017.9.28）について

「3) 第 8 回依存問題対策推進会議（2017.9.27）について」での内容を実施するにあたっての費用負担に関する書類を受領した。21 世紀会には予算枠がないので、その度こういった請求が出される。今後はこの支払いが継続される事になる。回答の猶予までに PCSA 理事会の開催がない為電子理事会で対応する。

また、安心パチンコスロットアドバイザー講習会について。各都道府県遊協での講習会開催について、組合ではない店舗（非組合店舗）が具体的に講習会に参加、受講するための方法が明確に示されていない事が懸念された。各都道府県遊協の対応にも温度差が見られる事もあり「非組合店舗対応について」全日遊連と意見を交わす場を持つ事となった。

5) 安心娯楽通信 4 号（2017.9.21）について

安心娯楽通信は、リハビリサポート・ネットワーク（RSN）から毎月発行されているホール向け通信。RSN のホームページにアップロードされている。下記の各通信の内容を確認した。

<安心娯楽通信 第 4 号 2017.9.21>

- ・「世界最高水準」の入場規制
- ・西村直之代表のちょっとレクチャー「社安研 パチンコパチスロ遊技障害全国調査」調査結果の概要
- ・特別寄稿 現役パチンコホール店長「ホールの現場から 業界が進める依存問題対策に寄せて」
- ・ホール企業からの投稿 経過報告「先入観が打ち消される経験」

安心娯楽通信 URL <http://RSN-sakura.jp/anshingorakutsushin.html>

6) 自己申告プログラムについて

自己申告プログラムマニュアル案について情報を交換した。自己申告プログラムの申込書は会員、非会員共通で1年間有効。しかし、申し込み後3か月来店がなければ申込書は失効する。また写真を貼るとしているが、写真付きの運転免許証を確認すれば良いという話になっている。詳細は店舗運用にゆだねられるとの事。金額制限と回数制限と時間制限を申請できる。金額は来店の度に確認する。また、時間制限では携帯に電話、声掛け、アナウンスなどから本人が選択する。これらは複数選択が可能。現在はアナログでの対応を念頭に置いてある。また、金額制限、回数制限は貯玉会員のみ対応できる事から、非会員が金額制限と回数制限を要望した場合には、貯玉会員となる必要があるという流れ。なお、現行の自己申告プログラムは一旦廃止した上で新規の自己申告プログラムを立ち上げる形を想定している。また、新たな自己申告プログラム導入に際して、試用期間の運用を経て本運用を開始する事も検討された。

7) まとめ

- ・設備での対応方法に対する質問を各社より募集する。
- ・安心パチンコスロットアドバイザー講習会について、特に非組合店舗への対応をメインに全日遊連に話を伺う。
- ・安心娯楽通信（4号）には目を通していただきたい。
- ・自己申告プログラムは現段階でのマニュアル（案）内容を検討した。

8) 次回開催

平成29年10月28日（木）
午前9時30分～12時
PCSA 会議室

以上